

## 請願署名ご協力のお願い

2008年10月28日 ○○○号室□□

私は、武田問題対策連絡会に個人参加していますが、このたび連絡会として藤沢市議会に「研究所建設からの安全確保」「バイオ汚染から住民生活と環境を守るための条例制定」を求める請願署名に取り組み提出することになりました。対策連絡会の請願署名ご協力願いと署名用紙をポストインさせていただきますが、今ここでなぜ、私は武田薬品新研究所建設に不安を感じるかについて箇条書きで説明させていただきます。

1. 私が武田薬品新研究所建設に不安を感じる理由は、その規模の巨大さもさることながら、**研究施設に3つのP3実験施設と1つのRI実験施設が含まれていることです。**

P3施設とは、病原体を含む微生物を扱い、遺伝子組み換えや動物実験を行うバイオ施設において、外に危険な病原体が漏れないように、安全確保の方法をP1～P4までのレベルで表したもののうち、上から2番目に高いレベルの施設で、高病原性低伝搬性の微生物・細菌類・ウイルス(炭疽菌・エイズウイルス・鳥インフルエンザなど)を扱える施設です。

2. 建設予定地は、住宅、マンション、老人ホーム、総合病院、保育園、小中学校、複合商業施設が近接する人工密集地です。研究所からこれらの病原体が漏れた場合、住民の生命と健康は大きな危険にさらされます。**建設計画では、研究施設から1時間あたり800万㎡の排気を屋外に、毎日2200㎡の排水を公共下水に排出する計画です。この面から見ても、上記の病原体漏れが発生した場合、その影響は広範囲になることが予想されます。**

3. 病原体漏れなどによる災害を生物災害(バイオハザード)と呼称しますが、この災害の特徴は

- (1) 生物災害の原因を確定するにはかなりの時間がかかります。
- (2) 生物災害を起こした病原菌は、体内・体外環境の条件次第で増殖することができるので、**感染被害が拡大していく可能性があります。**
- (3) 病原体が感染しても自覚・他覚的な健康被害が表面に現れないまま過ぎてしまうこともあります。
- (4) 現実に被害が発生しているのに、その原因が判明しないまま経過し、そのため原因を排除する対策(治療を含む)も不明で、病状は悪化する一途をたどり、ついに死亡することさえあります。  
そして原因の真の姿が解明されるまでは、原因不明として処理され、被害だけが認知されます。

4. 武田薬品工業(株)新研究所の誘致は税金が見込めるので、もろ手を挙げて賛成といわれる方もいらっしゃると思います。

けれども、**健康と安全は失われてそのかけがえないことがわかるもの、お金で買うことのできないものではないでしょうか。**

皆様のご理解をいただき、ご署名をいただけましたら、○○○号室□□の郵便受けにポストインさせていただきますようお願いいたします。(請願文と署名部分は切り離さないでください。)